

# 赤谷プロジェクト10周年シンポジウム

## 赤谷森林ふれあい推進センター

平成26年3月9日東京農工大学において、日本各地で「地域づくり」に携わり活躍されている方々をゲストにお迎えし、赤谷プロジェクトのシンポジウムを開催しました。

シンポジウムは三部構成からなり、年度末で都心から離れた会場でしたが、約120人の方が来場しました。

### 第一部 「赤谷プロジェクトの取組の紹介と問題提起」

赤谷プロジェクトの地元であるみなかみ町や赤谷プロジェクトの10年間の取組を紹介した後に、シンポジウムのテーマとして「自然環境から多くの恵みを得ることで、より持続



会場の様子

力を持つ人の社会をつくるため、人と自然の新たな良い関係づくりをどう行っていくか」という問題提起を行い、パネルディスカッションが始まりました。

### 第二部 パネルディスカッション1 「自然をいかした地域づくりの展望」

パネリストの皆様から、乗鞍山麓の五色ヶ原(岐阜県高山市)で行われているガイド事業の取組やゴールデングレート国立公園(USA)での保全と利用に関する経緯の紹介、地元の人達が参加して地域振興を進めるためには住民のアイデアを引き出す対話能力が必要であるとの意見が出されました。

また、パネリストとして参加した林野庁国有林野部の沖部長からは、今後見込まれる人口減社会を見据えれば、都市部との連携をいかに進めるかがポイントであり、国有林も協力するので地域が主体となって取り



パネリストとして発言する  
沖国有林野部長



パネリストとして発言する  
寺川計画保全部長

### 第三部 パネルディスカッション2 「赤谷プロジェクト次の10年」

第一部のパネルディスカッションを踏まえ、協定を締結している三者が、今後の展望をそれぞれ述べるとともに「赤谷プロジェクトは里山資本主義の好事例であり、これからもフロントランナーとなって取り組んで欲しい」「三者の協働を持続させるためにも三者だけで固まらず、外部の人達との連携を一層進めて欲しい」などの期待も寄せられました。

最後に「生物多様性の復元の取組に対して科学的に検証すること、ようやく芽が出てきた「自然を生かした地域づくり」に向けて、これからの10年も協定三者で協力しながら、よりよい活動を目指すこと」を宣言し、閉会となりました。

## 今月の表紙 「コンテナ苗を活用した造林」

福島県福島市の日向外1国有林で実施されたコンテナ苗植栽の検討会(実演)の風景です。

コンテナ苗を用いた実証的な植栽事業を行い、普通苗との比較による作業工程、生育状況等のデータを収集し、低コスト造林の確立を目指します。

写真は植栽するための穴を専用器具で開ける作業で、右下は、植栽されるコンテナ苗です。

※ コンテナ苗とは、専用の育成容器を用いて栽培した培地付きの苗木で、植付作業やその後の下刈作業等の効率化が期待されます。

